

大学等名：東京電機大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

取組概要

本事業は、本学がこれまで構築してきたPDCAの教育枠組をベースに、「技術で社会に貢献する技術者」に必須の知識・能力を修得させる教育体制構築のため、下記4点に注力して実施するもので、未来科学部の活動を基とし、成果を全学に普及させる予定である。

1. (教育枠組1) PDCAサイクル実質化のため、汎用的能力の評価ができるルーブリックを米国VALUEルーブリックを参考に開発・普及
2. (教育枠組2) 授業外学修時間増加のための反転授業導入とその運用手法の開発・普及
3. (教育内容) 教育目標の知識・能力を学生に効果的に修得させられるPBLおよびアクティブ・ラーニング手法の開発・普及
4. (教員教育力) 教員教育力向上のための教員評価制度の構築

(背景): H23教育改善推進室設置で、PDCAサイクル枠組構築、教育目標明確化、カリキュラム体系化を実現、PBL型科目普及
(問題点): 教育改善枠組やPBL型科目の有効性評価のための定量的学習成果評価手法未整備、アクティブ・ラーニング科目の未普及(44%)、教員の教育能力評価制度未整備

取組のポイント

教育改革

反転授業による学修時間増加とアクティブ・ラーニングで知識習得深化、汎用的能力育成
ルーブリックを含む各種学修成果可視化手法導入で、目標達成度を定量的に測定・改善

教員教育力向上・FD

教育の質評価を含む教員評価とによる教育力向上
AL、PBL、反転授業、PDCAサイクルに関するFD

本事業の定量的成果

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	100%	100%	100%
アクティブ・ラーニング科目の割合	44%	70%	100%
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	8.4時間	9.4時間	12時間
反転授業科目の割合	0%	30%	100%
自律的活動が可能な学生の割合	—	50%	70%

学内外への教育改革の波及効果

■ 本事業実施による大学改革の加速効果

- PDCAサイクルの実質化と、学生主体の深い学びの定着
 - 標準的ルーブリックの設定と、これを用いた汎用的能力の定量的評価手法の実用化により、アウトカムズベースの教育を実現
 - 学生主体の深い学びを促す、PBL・アクティブ・ラーニング・反転授業の効果的実施法のノウハウの蓄積とハンドブックの作成
- 教育力の質的評価を入れた教員評価による教員教育力向上

■ 事業実施による学内外への影響

- 上記の成果を終了後3年で全学に普及
- 上記の成果をシンポジウム等で学外に波及